

約 200 年前より世界中で西洋化が推し進められ、物質と便利さは大きく進歩しました。しかし一方では、自然破壊や環境汚染などの問題が発生し、根本的な解決策を求めて東洋思想が見直されています。

西洋と東洋では自然観が異なり、西洋では「自然は支配する対象」ですが、東洋では「人は自然の一部」と捉えます。漢方は東洋の自然観から発展した医学なので、自然を破壊し、水や土を汚せば、人も病気になると考えています。

日本では縄文時代より麻が栽培され、衣食住のあらゆる場面で活用されてきました。麻はどんな気候でも短期間で成長し、農薬を必要とせず、さらに土を浄化してくれます。また神聖な植物として、神事や伝統文化においても重要な存在でした。麻は、人が自然と共生するために欠かせない植物であり、戦前は日本全国どこにでも自生していました。



見直される東洋思想 自然と共生するために



しかし、戦後に栽培が禁止され、今では大麻（たいま）と呼ばれ、怖い違法薬物になってしまいました。実は大麻には産業用と薬用があり、日本の大麻は薬用成分の少ない産業用でした。近年、この産業用大麻は材料としての価値と環境改善

効果が世界的に認識され、各国は栽培面積を広げています。薬用大麻の方も、顕著な効果と安全性が認められ、海外では現代医療で治療が難しい疾患に効果を上げています。大麻の薬用成分の CBD（カンナビジオール）は、ストレス緩和や抗酸化作用があるとして日本でも解禁され、大麻に対する印象も変わりつつあります。

世界的な流れもあり、日本でも、産業用と薬用を分けた上で、今後どう扱うべきか、考える時が来ているようです。

(健康科学センター 診療所長 武生 英一郎)

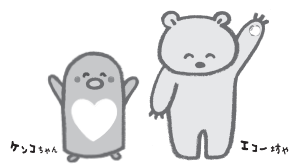
予防医学事業中央会奨励賞



予防医学事業中央会櫻林理事長(右)とフォトセッションする高田課長補佐(左)

10月27日、鹿児島市内で開催された「第67回予防医学事業推進全国大会記念レセプション」において、「予防医学事業の実務に10年以上従事し、他の模範となりさらには今後の活躍を期待する者」として、当協会・健康科学センター 渉外課高田真弓課長補佐が、公益財団法人予防医学事業中央会の「予防医学事業中央会奨励賞」を受賞しました。

令和4年度 地区衛生組織活動資金募集



通称

『環境・健康募金』

環境・健康募金(旧 健康感謝募金)は、昭和35年から実施し、令和4年度で63回目を迎えました。集まった募金は、募金委員会によって適正に配分され、各市町公衛協の活動資金として、地域社会に役立てられています。

環境・健康募金
総額(円)

40,323,876円
(令和4年度年間実績)



環境協に配分された募金は、以下のような事業に活用しています。

【学習教材貸出事業】

環境づくりや健康づくりに関する各種グッズの貸出をしています。貸出グッズの一覧は、当協会ホームページからご覧いただけます。
(<http://www.kanhokyo.or.jp>)

NEW

食品ロス ZERO マスター
食品ロスについて、興味を持ち、理解しながら楽しめるカードゲームです。
(対象年齢：小学校高学年以上)

◆貸出グッズのご紹介◆



来場者でにぎわう環境協ブース

22年に協賛団体として出展しました。当協会は、広島県との協定に基づいた被災地での水質検査のほか、町公衛協と防災協力を進め、災害時の水確保に関するアンケート調査を行ったほか、井戸水活用に関する公衛協の取り組みなどを紹介しました。また、子どもが楽しめるよう、間伐材を使ったパズル体験コーナーを設け、ブースは終日賑わいました。
(経営企画課 山下祐治)

昨年11月6日に開催された、広島テレビ(広島市東区)主催の「みんな防災フェス2022」に協賛団体として出展しました。当協会は、広島県との協定に基づいた被災地での水質検査のほか、町公衛協と防災協力を進め、災害時の水確保に関するアンケート調査を行ったほか、井戸水活用に関する公衛協の取り組みなどを紹介しました。また、子どもが楽しめるよう、間伐材を使ったパズル体験コーナーを設け、ブースは終日賑わいました。
(経営企画課 山下祐治)

みんなで防災フェス2022 水の確保に関するアンケートなど実施

脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動

2050年カーボンニュートラル及び2030年度削減目標の実現に向けて、国民・消費者の行動変容、ライフスタイル変革を強力に後押しするため、新しい国民運動が始まりました!!

賛同はこちらから▼



COOL CHOICE
賛同登録用QRコード

❖ 新たな国民運動の内容 ❖

①テレワークなどの働き方、暮らし方での後押し

デジタルも駆使して、多様で快適な働き方、暮らし方を後押し(テレワーク、地方移住、ワーケーションなど)

②豊かな暮らしを支える製品・サービスで後押し

脱炭素につながる新たな暮らしを支える製品・サービスを提供・提案

③インセンティブや情報発信を通じた行動変容の後押し

インセンティブや効果的な情報発信(気づき、ナッジ)を通じた行動変容の後押し(消費者からの発信も含め)

④地域独自の暮らし方での後押し

地域独自の(気候、文化等に応じた)暮らし方の提案、支援

今後10年、生活がより豊かに、より自分らしく快適・健康で、そして2030年温室効果ガス削減目標も同時に達成する、新しい暮らしを目指しましょう。

スマートフォンやタブレット端末で、右上のQRコードを読み取り、COOL CHOICEへの賛同をお願いします。
(脱温暖化センターひろしま・環境省)

市町名	募金額(円)	対前年実績比(%)
府中町	1,208,800	91.1
海田町	1,980,000	88.0
熊野町	1,384,001	96.4
坂町	344,100	99.5
江田島市	1,681,310	99.2
竹原市	1,567,800	103.3
大崎上島町	294,900	97.5
大竹市	2,100,000	87.4
廿日市市	3,233,660	96.5
廿日市市大野	2,523,423	97.8
廿日市市佐伯	0	0
廿日市市吉和	51,900	115.1
廿日市市宮島	188,300	117.6
安芸太田町	0	0

市町名	募金額(円)	対前年実績比(%)
北広島町	0	0
安芸高田市	1,209,650	59.8
東広島市	4,289,608	97.1
三原市	1,580,792	104.8
世羅町	459,240	62.9
尾道市	3,648,500	85.0
福山市	8,277,310	97.7
府中市	1,030,392	98.9
神石高原町	0	0
三次市	1,200,000	51.2
庄原市	2,002,800	85.1
その他	67,390	96.8
合計	40,323,876	85.8

市町別一覧表

※この表は、令和4年11月末までに市町公衛協事務局から募金委員会に振込みのあった実績額を記載しています。